

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 福岡県 】

学校名【 福岡県立三井高等学校 】

1 実践テーマ	I II III IV V
2 実施対象者	福岡県立三井高等学校 3年生 30名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 (福 祉)</p> <p>② 行事名 (オリンピック・パラリンピック教育 小郡特別支援学校・三井高等学校交流教育 障がい者スポーツ (ボッチャ) 競技交流体験会)</p> <p>③ その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目 標 (ねらい)	<p>昨年度取り組んだ障がい者スポーツ「ボッチャ」競技を通して、小郡特別支援学校高等部の生徒との交流を深める。さらに特別支援学校の生徒とともに障がい者スポーツを体験することにより障がいに対する理解を深め、パラリンピックへの関心を高める。また、仲間と協力して競技会を実施することにより共生社会の実現に積極的に関わろうとする態度を育成する。</p>

5 取組内容

- 1 7月～8月 小郡特別支援学校と連絡調整
- 2 9月11日 事前授業
福祉関連授業において 3年2組（肢体不自由生徒含む、車いす利用）にボッチャルールを復習し、競技を行った



昨年度の校内ボッチャ競技会の様子・初めてのボッチャ体験・・・

競技会チーム決定

事前打ち合わせ（小郡特別支援学校）

- 3 9月12日 会場設営（小郡特別支援学校）

- 4 9月13日 小郡特別支援学校・三井高等学校交流教育 障がい者スポーツ（ボッチャ）競技交流体験会

9:15 小郡特別支援学校に移動

10:00

- 1 趣旨説明等（ピロティ）
- 2 ボッチャ競技紹介及びルール説明
- 3 チーム確認
- 4 競技会（3チーム総当たり予選リーグ・決勝リーグ）
※各チーム1名は車いすを使用して競技を行う
- 5 感想文

昨年度の経験を活かし、小郡特別支援学校の生徒にルールを説明したり、一緒に作戦を考えたりしてチームで協力して競技会を進めることが出来た。



競技会の説明を真剣に聞く生徒達・・・



いよいよ競技開始です！！



車いすの生徒もランプスを使ってボールを転がす



介添えに支援してもらって競技を進める



作戦も慎重に・・・



優勝チームに賞状授与

6 主な成果

- ① 昨年度校内で実施したボッチャ競技会の経験を活かし、小郡特別支援学校の生徒に積極的にルール説明や競技のやり方を教えるなど、スポーツを通してリーダーシップを発揮して自ら進んで取り組む姿勢が見られた。
- ② パラリンピック競技であるボッチャを体験することで、様々な障がい、年齢、性別の垣根を越えて楽しむことが出来る競技であることを改めて実感することが出来た。
- ③ 競技会を通して、お互いにコミュニケーションをとり、仲間と協力することでチーム力を高めることが出来ると気づくことができた。この体験が社会生活においても生かされることを期待する。

<生徒の感想より>

- 自分は車いすに乗っており、昨年から体育でボッチャを体験していますが、今回は同じ障がいを持つ人たちとたくさんのチームで競技会を体験できてとても楽しかったです。また普段はあまり人と話すのが得意ではないのですが、同じチームの人とはスムーズに話すことが出来て良かったです。(肢体不自由 車いす利用生徒)
- 今回のボッチャ交流体験会を通して大切だと思ったことが2つあります。1つめはどのような障がいにも対応できるようランプスという道具を使ったり、投げることが出来ない人には介添え人が手伝ってくれるなど障がいの垣根を越えて楽しむことが出来る工夫があるということです。2つ目はゲーム性が高く、様々な攻略法があり、大人も子供も様々な年代で楽しむことが出来るという点です。パラリンピック大会でレベルの高い競技を見てみたいと思いました。

	<ul style="list-style-type: none"> • 今回の交流体験会を通してスポーツのすごさを知りました。ボッチャというパラリンピック競技と一緒にしているだけなのに、障がいがある人ともすぐに仲良くなり、会話をしたり、笑いあったりできることのすばらしさを感じることが出来ました。 • 今回の競技体験会では試合には負けてしまいましたが、私は心の交流が出来たと思いました。なぜなら、同じチームの人たちがどうしたいと考えているかを想像しながら競技を行うことが出来たからです。このように障がいのあるなしに関わらず実施できる競技会は、今後も続けてほしいと思います。 • 初めて交流する特別支援学校のみんなどのボッチャはとても楽しかったです。試合を重ねるうちに笑顔も増えて会話も増えていき自然体で楽しく競技することが出来ました。楽しいだけでなく、気配りの大切さなども学ぶことが出来、交流が深まったと思います。 • 最初は少し戸惑いながらの競技会でしたが試合が進むにつれ盛り上がり、楽しくなってチームの人たちとハイタッチをするようになりました。このボッチャ競技をもっとたくさんの人に知ってもらうためにも東京パラリンピックのボッチャ競技をぜひ多くの人に見てもらいたいと思います。 • 今回の競技体験会は昨年の校内競技会より盛り上がり、楽しかったです。特別支援学校の人たちとどうすればうまくできるか攻略法を話し合っ協力することが出来、とても楽しい時間となりました。東京パラリンピックでは世界最高のプレーをぜひ見てみたいと思いました。
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 昨年本校で実施したボッチャ競技会の体験を生かして実際に障がいを持つ人たちとの交流を目指し、小郡特別支援学校において障がい者スポーツ競技交流体験会を実施した。 ② 本校生徒と特別支援学校生徒による合同チームを編成することにより、障がいを持つ人たちとの交流をより深めることが出来た。 ③ ボッチャ競技の体験を深めることにより、東京パラリンピックへの興味関心を高めることが出来た。
<p>8主な課題等</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 他校との日程調整が難しかった。 ② 普通科クラスでの交流会を実施ことが出来なかった。
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 太宰府市在住の道下美里氏を講師に招いての交流会を検討する。 ② 今年度実施が出来なかったソフトボールの授業を実施したい。